

---

○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3 時 1 5 分）

---

◇ 鈴 木 茂 孝 君

○議長（藤井 要君） 申し上げます。本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。ご異議ございませんね。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤井 要君） 異議なしと認めます。

よって一般質問を続けます。

通告順位 5 番、鈴木茂孝君。

（2 番 鈴木茂孝君 登壇）

○2 番（鈴木茂孝君） それでは通告に従いまして壇上より一般質問させていただきます。年末より、コロナ感染者が増加し、町民及び事業者の方に甚大な影響が出ております。特に事業者においては、年末年始などの賑わう時期に重なり大きな影響を受けています。町は支援金を支給することにしましたが、今後も引き続き、支援が必要と考えております。本日は 3 点について質問致します。1 点目はコロナ対策について、2 点目は、令和 3 年度の予算案についてです。これからどのような展望をもって町を導いていくのか、コロナ禍の時代を見据えた計画がなされているのか、聞いていきます。3 点目は災害時の電源の確保についてです。甚大な被害をもたらした東日本大震災から 10 年を過ぎようとしております。先日も東日本大震災の余震とみられる大きな地震がありました。私たちは決して東日本大震災を忘れてはなりません。これを機にもう一度防災について真剣に考えていかなければならない。そのように思います。今年度の予算編成にあたり、中学校の支援員の増員、聖和保育園の ALT 派遣をお願いしましたが、今回 盛り込んでいただきありがとうございます。それではあとは質問席にて質問いたします。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 鈴木議員の質問でございます。大きな 1 つ目、コロナ対策についての 1、コロナ対策の財源として、7 月から 3 月まで議員報酬の 10% の削減をしたが、どのように活用されたのかというご質問でございます。お答えします。新型コロナウイルス

感染症の拡大により影響を受けた町民生活や町内経済に対する予算の拡充のため、6月議会で議員提案による議員報酬の10%削減案が全会一致で可決され、現在、実行されておりますが、町や町民のことを思う議員の皆さまのご決断に対しまして、大変ありがたく厚く御礼を申し上げます。議員ご質問の削減された予算の活用先ですが、町全体の事業に活用いたしております。次に2つ目、2月15日の臨時議会で今回の給付金対象外の事業収入50%の減収に満たない、事業者への支援を早急に要望したが、検討はされているか、ということでございます。お答えします。先日の議会臨時会においても申し上げましたとおり、50%に満たない減収率の事業所についても新たに制度設計をし、準備が整い次第、支援を行っていく予定であります。3つ目の質問です、町民に好評だったプレミアム商品券の販売を再度考えていると聞くが、具体的な予定はどうかというご質問です。お答えします。プレミアム商品券については、町民の皆さまから好評を博するとともに、約1億7千万円というお金が町内で消費されたことから、地域内の経済循環に多大な効果があったものと認識しております。商工会からは、再販売をという強い要望もあり、現在協議を進めているところでございます。今後も、コロナ禍で疲弊する地域経済を回復させるべく、商工会と連携し、経済施策を展開してまいりたいと考えております。4つ目でございます。宿泊業は、深刻な影響を受けており、休業しているところもある。特別な支援が必要ではないか、というご質問です。お答えします。宿泊業に対しましては、今年度、1人につき3千円の宿泊助成金を観光協会へ補助し、観光誘客の拡大を図ってきたところでございます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の第3波により、12月28日からGoToトラベル事業が停止となり、関東圏に緊急事態宣言が出されたことなどから、観光客の流れが止まってしまい、町内観光産業に深刻な影響を与えていることは、十分認識しております。今後、社会経済の状況を見極めながら、支援策を検討してまいります。次、大きな2つ目の質問でございます。令和3年度予算案について、そのうちの1つ、令和2年7月発行の広報まつぎで、町の今後のあるべき姿について書いているが、令和3年度予算案に反映されている施策は何かというご質問でございます。回答いたします。新型コロナウイルス感染症の影響は依然として大きく、人の移動も制限され、町民のくらしや経済は大きな打撃を受けております。新型コロナウイルスが収束しても、以前の常態に戻ることは困難であり、ニューノーマルの時代に対応した行政運営が求められるものと認識しております。町の基幹産業である観光においては、従来首都圏からのお客さま依存で

はなく、ワーケーション・テレワークといった新しい働き方に対応するための予算を計上いたしました。また、静岡大学など関係機関と連携してウイズコロナ・アフターコロナを見据えた松崎町の将来の観光のあり方を考えてまいります。さらに、コロナ禍におけるマイクロツーリズムの需要を掘り起こすため、山梨県・長野県への誘客を推進してまいります。農業におきましては、最も力を入れたい1つであります。桜葉産業振興・耕作放棄地対策・有害鳥獣被害対策は、農業振興を図るうえで重要な対策であり、それぞれ新たな取り組みも行ってまいります。特に、桜葉振興につきましては、地域おこし協力隊を増員し、課題解決に向けて人材活用を図ってまいります。交流人口の拡大も確かに必要ではありますが、コロナ禍において「地産地消」すなわち経済の地域内循環を推進していくことは、今後の松崎町のあるべき姿であると考えております。2つ目、コロナの影響もあり、地方移住が注目されている。人口減少は、深刻な課題であり、移住に力を入れた施策をしていく必要があるかと考えるがどうか、というご質問でございます。回答いたします。新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワークやリモートワークなどが普及し、会社への出勤が必要なくなるなど、時間や場所の制約にとらわれることなく働くことができる新たな社会環境に移行してきております。これらの動きは、地方移住への可能性を高める一つの要因となっており、移住の動きにつながってきております。町でも、観光地などでテレワークにより、働きながら休暇を取るというワーケーションに対応した施設整備を令和3年度当初予算に計上しており、まずは関係人口の増加に努めてまいります。移住には、いくつかのステップがあるため、移住定住促進協議会などを最大限活用し、移住施策を進めてまいります。大きな3つ目、災害時の電源についてでございます。そのうちの1つ、災害時役場の電源は72時間しかもたないと聞いているが、燃料が切れて救助が来るまでどのように対応するのかという質問でございます。回答いたします。災害対策本部を設置する役場庁舎におきましては、平成26年に津波浸水深より高い位置に自家発電機を設置し、あらゆる災害による停電にも確実に対応できるよう整備しております。整備にあたっては、国が示した「市町村のための業務継続計画作成ガイド」に基づき、72時間程度連続運転可能な量の燃料950リットルを発電機横のタンクに備蓄しております。議員ご指摘のように、停電が想定以上に長期化すると、備蓄燃料が切れ、継続運転が困難になる可能性は否定できません。現状できうる対策としましては、早期に燃料応援要請を行ない、外部からの燃料をすみやかに確保するとともに、自家発電に切り替わりましたら、

より節電に努め、少しでも運転継続時間を確保してまいりたいと考えております。今後、燃料の安定的な供給を確保するため、石油業組合等との災害協定を進めてまいりたいと考えております。災害時の電源についての2つ目の質問です。役場庁内の避難施設に太陽光発電施設を整備する考えはないかというご質問でございます。回答いたします。議員ご指摘のとおり、近年、全国各地で大規模な災害が発生しているなかで、燃料に頼らない太陽光を利用した太陽光発電設備は、災害時の拠点施設である庁舎の電源を確保するうえで、有効な手段の1つと思います。今後の取り組みにあたっては、初期投資や長期にわたる運用等の財政面や整備内容にかかる技術面等、さまざまな比較分析を行い、最良の方法を検討してまいりたいと思っております。以上、鈴木議員の質問にお答えしました。

○2番（鈴木茂孝君） 一問一答でお願いします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○2番（鈴木茂孝君） 6月の定例会において、私が提案者となり、全員一致でコロナで疲弊している町民の為に使って欲しいということで7月から3月までの議員報酬の10%、金額にして175万6千円を削減いたしました。提案者として、この使い道について、問う責任があると思ひ質問するものであります。お答えでは、町全体の事業に活用ということでございますが、175万円という大きな金額ですので、紛れてしまうというよりも、どこに使ったかっていうのがはっきり分かると思うんですけれども、それについては、いかがでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 議員報酬の10%削減の行き先ということでございますが、一般的に支出の削減につきましては、特定の収入を特定の事業に充てるということとは違うものでございます。従いまして、これは一般財源の削減ということで、実際に町の全体の事業・・・その中には、コロナも含まれるでしょうし、福祉の関係とか色々そういった町の全体の事業に活用させていただいたということでございます。

○2番（鈴木茂孝君） それでですね、ようは基金として積立れば、何に使用されたかは、はっきりわかるんでしょうけれども、ようするに、この金額は一般財源の中に入ってしまって、使い道がよくわからないと、というような形だと思ひますけれども、例えばですね、町長がですね、給料を半減してその半分福祉に使うんだ、という話であったかと思ひますけれども、このような形ですと、どこに、本当に福祉に使われたかわからないと、というようなこともあると思ひますけれども、それについてどのような見解をお持ちでしょう

か。

○総務課長（高橋良延君）その前にお答えします。町長の給料を 50%減ということで町長が就任当初から、行なっておりまして、年間約 500 万円削減をされてる訳ですけども、これも先ほど言いましたように、行き先という、どこへということでは、特定はできないところでございます。従いまして、ここは、福祉にしる経済政策にしるいろいろな町の助業のためにということでご理解ください。

○町長（長嶋精一君）今、総務課長が話したとおりですね、もし、この 12 月までに私は町長を努めたとすると約 2 千万円の削減になるわけです。それについて僕は、福祉の方に使ってもらうのが一番いいんだ、とは思いましたけれども、いずれにしる、どういうふうな使い道であれ、あるいは最終的に基金に積み上がっていくのか、それはわかりませんが、町の為になっていると思う事で満足しております。以上です。

○2 番（鈴木茂孝君）先ほどですね、総務課長より、コロナ対策に使うのかそれとも他のところに入ってしまうのかっていう話がありましたけれども、これはですね、コロナ対策に使うて欲しいということで町と一体となって、この難局を乗り越える意思を示すため、そして町民の皆様へ寄り添うためということで、疲弊する町民の生活及び町内経済に対する歳出予算の拡充にしてほしいと、補充して欲しいと、いうことで予算削減、同意してくれたわけですので、これは、やはりこれに使ったんですよってものがないと、補正予算を見ますと、ほとんど国県の補助金で補助金を流すというか・・・、充てるものが多くてですね、175 万円という金額が、これが使われたんだなあってものが見当たらないんですけども、それについてはいかがですか。

○総務課長（高橋良延君）コロナ対策 66 事業、今までにやってまいりました。その中で、国の交付金プラス一般財源、財政調整基金それも使いながらということでやっておりますので、コロナ対策についても、そういった支出の削減によって、浮いた金額ってありますか、そういったことも使われているということでもあります。

○2 番（鈴木茂孝君）使い道がね、こう、はっきり言えないのであれば、コロナ対策に使って欲しいっていう議員の思いであるとか、町民が自分たちの為に削減してくれたんだなという、期待ですか、そういうものも、裏切ってしまうというか、反する結果になってしまったと思いますけれども、それについてはいかがお考えですか。

○町長（長嶋精一君）議員の皆さん方のそういう貴重な・・・、お心については、町民は全員

が理解してると思います。理解してないという人は、おそらくいないんじゃないのかなというふうに思います。そのように考えます。

○2番(鈴木茂孝君) 例えばですね、観光協会行ってるメシわりっていう事業がありまして、この事業はですね、飲食店にて千円あたり200円の金券をサービスするという事業です。この事業費がですね、30万円と当初は少なくてですね、ある飲食店では金曜に始まったけれども、月曜に行ったらもう無いというようなこともありました。ぜひですね、そのような、これからでもいいですので、事業費の足りてないところ、コロナ対策補助金も次年度への持ち越しはできるというふうに聞いておりますので、是非、議員の思っているものを、町民の方々に届けていただきたいと思います。よろしくお願いします。では、次いきます。2月15日臨時会がありました。その中で、私は今回の給付金・・・、対象外の事業収入50%の減少に満たない事業者への支援を要望いたしました。事業者の方に話を伺いました。減収が50%までなかったけれども、多いところでは44%減というところもありました。この給付金の出すのに対して、アンケートを取ったということですけども、こういうことまでは把握しているでしょうか。

○企画観光課長(深澤準弥君) アンケートについては宿泊業者及び飲食店という限定でアンケートを観光協会の方でとったものでございます。先程、議員のおっしゃった44%の方についても、商工会を通じて、一応把握をしてございます。そういったことも含めた中で、先般の臨時議会の中でご指摘があったように50%の減収に満たない事業者への救済措置といったことを検討して、今いるところでございます。当然、先ほどのコロナ対策の交付金等も繰越をしてですね、そういった形での支援にまわしていきたいと、いう思いで今制度設計を進めているところでございます。

○2番(鈴木茂孝君) 私ですね・・・、コロナ禍でありまして、各事業者の方を一生懸命回っております。町長、私は、議員というのは、町民の方の話を聞いて、それを町の政策に反映させる。これが議員な重要な役割だと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○町長(長嶋精一君) まったくそのとおりだと思います。

○2番(鈴木茂孝君) まったくそのとおりだと思います。そして、今回の給付金ですけども、これはですね、私、新聞紙上で知ることになりました。一切議会の方へこうしたらどうだろうっていうような話がなかったというふうに思っております。このような施策の

進め方だと、議員の集めた情報、町民の声っていうのが、施策に反映されない、ということになりませんか。町長が、声なき声を聞くとよく申しておりますが、なぜ私たち議員の声を聞くことはされなかったのか教えていただけますか。

○町長（長嶋精一君）議員の皆さんのお声を聞かないかということは、私自身はないと思っておりますけれども、議員の皆さんの声と一般の町民さんの声、事業者さんの声というのは、極力取り入れてそれを政策に活かしていきたい・・・、これが私の考えでございますので、もしそういうことがあったならば、今後は、注意してですね、議員の皆さん方にもお声をかけさせていただきます。今回、先ほど、企画観光の課長から言いましたけれども、今回は、スピード感をもってやろうじゃないかということがあったのものですからね、とにかく商工会と連携して、早くやろうということでやりました。これから、しかし今、議員のおっしゃったような事を考えておりますので、よろしくご理解いただきたいなというように思います。

○2番（鈴木茂孝君）スピード感と申しますけれども、前回田中議員がおっしゃったように、前回出した時ほどのスピード感を求めてないっていうようなアンケートの結果もあると思うんですよね。例えばですね、スピード感出すというのであれば、例えば持続化給付金を貰った方は、20万、そうでない方は10万円というふうなくくりでやれば、同時に出せたんじゃないかなという風に思いますけれども、その辺は、今50%以下の方、4月早々にという話を頂いてますが、何がそこでつかえて、4月早々になってしまうのか、何が原因で、同時に出せなかったのか、教えていただけますか。

○企画観光課長（深澤準弥君）つかえたということではないんですけれども、今回の持続化給付金の受けている方というくくりをすることによって、申請書及び同意書・・・、それは反社会勢力との付き合いがないという誓約書ですね、それと、あとその持続化給付金を受けたという証明、それは通帳のコピーでも、大丈夫です。それ以外には、納税証明書を必要とするんですけれども、前回一度、飲食店と宿泊業については、納税証明書を出して、給付していることがございますので、同じ年内で2度を出させる必要がないということで、今回納税証明書をそういう方々についてはとってごさいません。そういった手続きの中で、受けて、すぐ出せる状況というのが、それによってできましたものですから、今回についても、先般3月2日受付分までの、合計163件につきましては、今支払いの手続きを続けておりまして、最速3月15日には支払いを出来るような状況になってございます。

○2番（鈴木茂孝君）コロナで結構差別というかいろんな中傷・・・、いわゆる誹謗中傷みたいなものがある中で、やはりね、町がね、その後50%で区切ってしまうようなことをしてはいけないと思うですよ。国は50%で区切りましたけれども、町はより丁寧に、やっぱりやっておくと、このきめ細かい対応してほしいというふうに思います。そうでないと、隣町はこうだった、なんで松崎はこうなんだ、松崎でもあなたは出たけど私は出ない、同じ商売やってるのに、この町で商売続けていきたいという意欲が減退してしまうんじゃないかと思いますので、ぜひそのアナウンスだけでもですね、それに漏れた方は、漏れた方にも出すよと、いうアナウンスだけでも早めにしてあげて頂いて、事業者同士の分断というか、そういうようなものも考えていただきたいなというふうに要望します。それから、プレミアム商品券についてですけど、これは本当に町長言われたように、町内の事業者からも非常に効果があったと、実際に1億7千万円というお金が出るという事業はなかなかないと思います。ただ、町民からですね、2度目のプレミアム商品券の発売について、やはり行列ができて、かなり密になったと、そして密を避けようとして、後で購入しようと思った方が、売り切れとなって買えなかったというようなお話をかなり聞いております。次回ですね発売する時には密を避けられるように、考えて購入方法を検討していただきたいと・・・。それから南伊豆町に関しては3月にもやはり実施しております、この花の時期、観光客は期待できません。宿泊業もとより飲食業なかなか厳しい状況続いております。ぜひぜひ、早くスケジュールを決めていただいて出して欲しいと思いますがいかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君）議員のおっしゃるとおり、プレミアム商品券につきましては、2回目の発売の時に行列ができたというようなこともございまして、その2回目をやる際についても商工会と色々協議をしたところではございましたが、商工会の方で、やり方を今回は前回やったような形でやりたいというようなことがあったもんですから、それで様子を見ようということで、実施しました。ただ今回は、前回みたいなことが、実際にあったものですから、それについては、もう少ししっかりと協議を進めて対応をしていきたいと考えてございます。宿泊業につきましてですけれども、実は3月1日に県の方の宿泊助成金の・・・、件が再開されまして、即日完売になってしまった。これは・・・、じゃらん等々の例の・・・、一泊1万以上5千円っていう券になりますけれども、そういったものがあってですね、今日のお昼のニュースでもG o T o伊東ということで、伊東市が同じよ

うな宿泊助成の方を発売をされたということで、伺っております。こちらについても、やはり宿泊業飲食店・・・、特に宿泊業ということですので、観光協会等を通じまして、色々、今前回・・・、今年度やっている事業の効果の検証と、あとしっかりと・・・、使い切っていない部分もあったもんですから、今回G o T oの停止等々が12月末から1月に入ったところで、緊急事態宣言等が発令されたりした中で、流れがちょっと変わった部分もございます。そういったものをふまえた中で、今後G o T oもこれから再開がいつになるかちょっと分からない、もしくは再開してそれが終わった後、アフターG o T oもしくはポストG o T oの中です、息の長い支援をどういった形で効果よく出せるかということをお協会の共々いろいろ知恵を出し合っております、対応していければと考えてございます。

○2番（鈴木茂孝君）プレミアム商品券の具体的な時期っていうのはわかりますか。

○企画観光課長（深澤準弥君）今ははっきりと申し上げられませんが、やはり皆さんに議会の方にも図りながら、同意を得た中で進めていきたいと考えております。出来れば、6月の定例会ではなく、その前に、何とか進めていきたいということで、今その準備を進めているところでございます。

○2番（鈴木茂孝君）この分ですと、ちょっとゴールデンウィークも厳しいかなという感じがしますので、ぜひ、そこまで使っていただけるように、そこに住民の方が町中でお金を使えるような形にしていなければなというふうに思います。それから宿泊業についてですけれども、2月18日に温泉旅館組合長がですね町に追加支援を要請しております。その際に町長が苦しい状況は把握しているというふうに答えております。宿泊業者は年末年始、そしてこの春ですね、それから先ほ言いましたけれど、連休もなかなか見通しが厳しいと言うことがあります。支援金20万円もございますので急にどうこうというのは、分かりませんが少し時間をかけて、調査しまして、例えば前回の時には、民宿という名前はあってもあまり営業をしてないところにも支援金というのがいったように聞いておりますので、例えば少し時間をかけて宿泊者一律でなくてなくてですね、施設の売上等に応じて何パーセントかってことで支援していくってことも考えていくべきじゃないかなと思うんですけれどもその辺はいかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君）宿泊業者の、売り上げに応じた額というところなんですけれども、それについては、今まだはっきりと申し上げられませんが、どういった形で支援を進めていくかというのは、先ほどもちょっと申し上げましたが、ちょっと長期的なスパンを

もくろみながら進めていかなければならないと考えております。先ほども、田中議員からお話がありましたけれども、温泉旅館組合でAEDの設置というところがありました。その部分についても、一番最初は地域の方にも使って頂けるというなことでAEDを自分たちの宿に限らず外へも、ということで半分の助成を町としてもして、お互いに地域の観光客だけでなく、地域の方の安全・安心ということで助成をしたところがございます。ですので、今回は先ほどもお話があった通り、旅館組合の方でなかなかお客さんの方に集中するわけにもいかないということであれば、地域としてそういったAEDの・・・、例えば観光客が周遊する場所について、どこにもないということがないような形で全体的なものを把握しながらですね、そこについても要検討な部分であると思っております。具体的にちょっと、今すぐ、誰がいくらっていうのは、申し上げられませんが、総合的に見ていろんな支援策を検討していく必要は当然あると思っておりますので、今後ちょっと色々検討してまいりますので、また、ご指導いただければと思います。

- 2番（鈴木茂孝君） 前回ですね、宿泊者の方に、1人につき3千円の宿泊補助金っていうことで、やって、宿泊業の人達、頑張ってくださいという形でやったと思うんですけども、結局、私の考えを言いますと、一番喜ぶのは、誰かというと、お客様が喜ぶと、その3千円割り引いて中の何割かが、ようやくの宿泊業者の方の元に入るということで・・・、であるならば、やはり、直接、宿泊業者の方に渡した方がより効果があるんじゃないかなというふうに思いますので、そのへんも検討の中に入れてもらえればというふうに思います。次に参ります、令和3年度の予算編成についてお尋ねします。町長が令和2年7月の発行の広報まつぎきで今後のあるべき姿、町の今後のあるべき姿というのに書いておられます。1ページ使って書いておられるんですけども、その中で、農林水産業と観光が一体となった自給自足、地域内経済循環これらのことを書いておられます。これは本当に、私も非常に賛同するところであります。そして、自給自足、地域内循環に加えて、もし私が加えんとするならば、いかに他の地域からお金を落としてもらおうか。つまり、外貨獲得、ということになります。地場産品を使った、例えばレストランの方が収益も上がり、結果として、地元の農産物を使うにしても、高く買うことができる。今の状況では、なかなか収益上がらないので、安く買ってしまおうという事も起きるかと思いますが、収益が上がった中では、農産物も高く買う事ができると、いうふうに思ってより地域内循環の効果が出てくるのではないかなというふうに思います。それから、町として道の駅の事なんですけれ

ども、町として道の駅の方向性を再構築していくというふうな・・・、先ほど答弁がありましたでしたが、この再構築ってをいう事のやり方として、前のようにワーキンググループを作って行くのか、それとも役所内でのプロジェクトチームみたいな形でやっていくのか、それが分かりましたら教えてください。

○議長（藤井 要君） 町長いいですか、答えないで・・・。

○企画観光課長（深澤準弥君） 先ほどの答弁の中でもありました通り、地域の方々に愛される施設である必要性というのが、問われている状況でございます。ですので、役場の中だけでプロジェクトチームということ考えてはいないところございます。

○議長（藤井 要君） 町長、いいですか。答えのほうは・・・。

○町長（長嶋精一君） 道の駅直売所の件ですね、直売所は残念ながら・・・、否決されてしまったわけでありましたが、今、鈴木議員がおっしゃったように、その付加価値を高めていく という・・・、6次産業という点においては、直売所というのは非常に必要だと考えております。そして、一番大切なのは、例えば町が、もっと言うならば、町長がどのような考えをもっているのかということが、やはり、一番大切だと思います。そして、周りの人達と話をし、あくまでも町長の考えだけが正しいわけじゃありませんから、色々なご意見を承りながらね・・・、やるということでもあります。従って今言える事はどういうふうな形でやっていこうかっていうことは、具体的にまだ決まっておられませんけれども、独断専行でやっていくということは全くありません。しっかりと会話をして吸収するところは吸収しながらやってまいりたいとこう思います。それが、町の為になると私は信じております。

○2番（鈴木茂孝君） ありがとうございます。やはり、私も町長が何らかの意思というか・・・、そういう展望を持ってらるって事は必要だというふうに思っております。その中で、時代の流れですとか、周りの方々の意見などを取り入れてやって頂きたいと・・・、やっぱり、直売所ありきでやると、なかなか無理があるんじゃないかなというふうに私は思っておりますし、実際に、町の直売所です、ものが集まらずに、少し余所から入れようかという話もあります。その中でやはり直売所というのは、農産物が集まるかどうかということも、ちょっと怪しくなってきたというふうなこともありますので、そこも含めてですね、いろんな方のお話を聞きながら、先ほど田中議員がおっしゃられた、そのところの力もちょっと借りてみて、参考に聞いてみるっていいんじゃないかという

ふうに思います。それで、今年度ですね、予算に何も計上されていないんですが、これは補正などで上げていくよというふうに考えてよろしいでしょうか。

○議長（藤井 要君）町長・・・。

○町長（長嶋精一君）まだ具体的に考えておりません。

○2番（鈴木茂孝君）長期的計画では、令和4年度に工事着工というふうな形になっておりますが、やはり、今年できなければ、そこもちょっと先になってしまうのかなということがありますね。今の三聖苑の状況ですと、お風呂がない中で三聖苑のレストランだけが、営業してるというのは、かなり無理があるというか、収益が低くなってしまふ、状況がありますので、やはり、なるべく早めにどうするのかというのを決めて、レストランを改修して、もうちょっと人が集まれるの形にするのであれば、そのような形に舵を切るというふうな形のことも、考えていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（藤井 要君）鈴木君、指名・・・、答弁者を・・・、指名するようになるべくして下さい。

○町長（長嶋精一君）補正予算を上げるかどうか、っていうことを考えていないということじゃありませんで、まだ、時期がどうなるかっていうことは、考えてないっていうこととでございます。そして、いろんな方のご意見を聞きながら進めてまいりたいなと、思っておりますけれども、私もずっと、三聖苑、今の状態は、良くないなと思っているのは、もう、10年ぐらい前からなんとかしなきゃいけないなというふうに思っておりました、ものですから、思い入れは強くあります。しかしながら、さっきいいました通りに、いろんな方のご意見を聞くということとあります。ただし、いろんな成功事例をついばんでね、じゃあ、我が三聖苑にそれを取り入れるっていうことは、どうかなと、私は個人的に思います。この風土にあった、歴史があったものを・・・、良いところを取り入れていくと、というようなことを考えております。

○2番（鈴木茂孝君）延長をお願いします。

○議長（藤井 要君）はい、認めます

○2番（鈴木茂孝君）そのへんで進めていただくようお願いいたします。次に参ります。コロナの影響もあって、地方移住が注目されております。松崎町に限らず、日本全体が人口減少というふうになっております。この中で、どこもワーケーションだとテレワーク

だということで、今、どこも今それを進めているわけですが、松崎町も、それを急速に進めていかなきゃいけないというふうなことを考えております。松崎町のそれはですね、松崎町の出生人数ですけれども、平成30年度は30人いました。令和元年は18人おりました。町長、今年の出生人数ご存じでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 9人と把握しています。

○2番（鈴木茂孝君） そうですね、9名です。ちなみに南伊豆町は25名ということで、松崎町かなり急速に減ってきております。しかも、この9名という方には、2人目3人目という方が多いそうです。ということは、これから生まれる子供というのがますます減っていくということが、予想されます。せっかく作った新しい保育園、幼稚園・・・、これも入園者が数人しかいなくなると、いうこともこれは遠い将来ではなくて、近い将来、考えなくてはいけないというふうになってまいります。今までと同じ移住対策をしては、松崎町は本当に消滅してしまうと、そのような危機感を持って施策を進めていかないと・・・、考えております。私のところに9月に移住相談にこられた40代の夫婦がおりました。たまたま、私が空き家を知っていたため、1月に移住ということになりました。先日、お会いしてお話ししたら、田んぼをやりたいということで、田んぼを紹介して、今年からお米を作ります。このようにですね、空き屋があれば人は入ってきます。特に、今の時代は、やはり、首都圏から多くの方が、田舎に移住したいということで、やってきていると思います。町内の空き家をどんどん整備していく・・・。今よりもっとスピードアップして進めていく。今、先ほど、移住推進協議会・・・、活躍してもらったという話がありましたが、今、実は年に1回か2回しか会議がないという状態で、ほとんど休眠しているような状態だと思いますけれども、もうこれにですね、しっかりと予算つけてもらって、もっともっと活発に移住定住誘致活動してもらおうというふうにして頂きたいんですけども、どのようにお考えでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今ご指摘のありました通り、移住定住促進協議会というのが、今まで、なかなか開催がされてこなかったということで伺っています。今後なんですけれども、やはりコロナウイルス感染症の影響によりましてテレワークやリモートワーク等が普及しておりまして、そういった意味では、いわゆるワーケーション等の国の政策等もございますし、全国的なそういう動きがでてきてございます。ですが、実は先進でやってる和歌山とか福岡はもう、実は、10年ぐらい以上前からですね、そういった形のも

のをやってございます。ですので、今、下田市が中心となって、横の連携を広げながら、移住対策を取り入れたワーケーションの対策は進めております。移住対策についても、一市町で手をあげるといふよりかは、来る方にとっては、松崎町の自治体的なエリアというのは特に、勘案されてなくてですね、こういう場所というイメージで来る方が多いと伺っております。そういった部分も含めまして、地方移住の可能性を広げていきたい、その中では、連携がやはり必要かとは思っております。ワーケーションにつきましても、ただ歓迎しますよ、というだけでは、なかなか難しく、自治体によっては、優遇措置をたくさん持っているところもございます。うちの方で、用意できる優遇的なものが何かあるかを、しっかりと見極めながら、その中で、きる範囲の中で、出来る限りのことをして、ワーケーションとして選ばれるエリアとして伊豆南部というエリアをどうやって発信していくかを今研究しているところではございますが、やはり、でも、ワーケーションといえど、単純にワークとバケーションってということだけではなく、地域との連携と課題の解決といったような目的を持って来る方が多いと伺っておりますので、そういった受け皿をしっかりとこれから作ってですね、企業さんとの打ち合わせ等も必要になってくるかと思っておりますので、やはり連携というのが、必要になるかと思っておりますので、今後は、そういった意味でも、進めていきたいと思っております。空き家についてですけれども、一応、空き屋バンクというのが、ありまして、そちらを不動産屋さんにとりあえずお願いしているところでございます。先ほども、鈴木議員の方であった通り、そのたまたま鈴木議員が知っていた、空き家があったというようなことで、そういった情報がなかなか集約しきれてないところもございますので、先ほどご指摘あったとおり、移住定住促進協議会等もですね、本当にそういった意味で、より一層活用して、機能させていく必要があると考えておりますので、またよろしくお願いたします。

○2番（鈴木茂孝君） では、次に参ります。災害時のことですが、やはり、最近、地震がかなり頻発しておりまして、こちらの方もちょっとドキドキしてる状況ではあるんですが、やはり、災害は待ってくれませんので、今から、どんどんどんどん整備していかなきゃいけないというふうに思っております。もし、災害があった場合に、自衛隊が本格的に来るのが、かなり時間がかかるだろうと、道路が壊れていけば1週間2週間、かかるかも知れないということで、やはりこちらの方でも、出来る限り、やっぱり想定外というものに備えてやって行かなければいけないというふうに思います。そして、72

時間して、自家発電の燃料が切れたあとですね、なんか、燃料というのは、継ぎ足しができないそうで、全部終わってからまた新しいタンクを使い始めないといけないという話を聞いてます。ですので、タンクを増やすというのは、なかなか現実的ではないのかなというふうに思いますので、先ほど、町長がおっしゃられたように、太陽光発電というものを使って、そこで、電源を確保していくということが、重要ではないかというふうに思います。そして、ただ、本格的にはやはり太陽光発電ですと屋根がもつのか、とか、また、整備にお金がかかります。そこまで整備するのに、時間がかかることもありますので、例えばですね、ポータブル太陽光発電システムというのがあります。これは20万円くらいで買えるというふうに聞いておりますがそれをですね、たくさん用意して、なんとかクリアしていくというようなことも考えてはどうかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○総務課長（高橋良延君）ご提案ありがとうございます。確かにソーラーパネルっていう大規模な設備ということになると、非常に、維持管理とか・・・、お金がかかるということです。今ご提案がありました携行型のソーラーパネルとポータブル蓄電池というのがございます。こういったものであれば各避難所あたりのところだとそういった備蓄をしておいて、いざ有事の時に、それは使えるというなこともありますので、今後、これは本当に実戦配備に向けて検討して参りたいと思います。

○2番（鈴木茂孝君）ありがとうございます。ただですね、やはり、最終的には、大きな発電施設が欲しいなというふうに思うところです。例えばですね、避難所である、松崎高校、聖和保育園、岩科幼稚園これは太陽光整備しましても、普段から使うことができると、松崎小学校にもありますけれども、普段から使うことができます。私も家が近いので、岩科の幼稚園に行く機会が多いんですけども、1日中というか、かなり日当たりが良い所です。かなり発電量が期待できるんじゃないかなというふうに思います。これも町長のいう自給自足になるんじゃないかなと、エネルギーの自給自足というのは地域からのお金の流出というものを防いでくれます。是非、早急にそこもやりつつ、とりあえずポータブル電源でしのぐというか・・・、そこが、大きいところができたら、今度は、その避難所にそのポータブル電源を配備していくような形にすれば、ポータブル電源も無駄にならずに済むと思うんですけれどもいかがでしょうか。

○総務課長（高橋良延君）　そうですね、やはり大きい避難所ですと、それなりの電源が必

要になりますので、これは先ほど言いましたように、やはり財政面、あと技術面等と詳細な分析が必要でありますので、ここは今後、最適な方法検討して参ります。以上です。

○2番（鈴木茂孝君）そうですね、なかなか時間がかかることではあると思うんですけども、やはり、自治体が整備するとなりますと、かなり補助金の方も出るというふうに聞いていますので、早急に検討していただいて、なるべく早く町民に安心安全な環境を整えていただきたいというふうに思います。

○議長（藤井 要君）鈴木君に申し上げます。時間の方も終わりになりますので、まとめて下さい。

○2番（鈴木茂孝君）コロナ対策ですね、是非スピーディーにそして住民の方、事業者の方が、不公平な思いをしないように、感情を持たないように、是非、スピーディーにやっていただきたい。これは、例えば、お金がすぐに支給されなくても、支給しますよ、支給するつもりはありますよ、って言うだけでもかなり効果があるともいますのでお願い致します。それから令和3年度の予算案ですけども、ちょっと三聖苑の方も考えていただきたいというふうなことと、太陽光発電も是非、勉強していただきたいと思います。以上です、ありがとうございました。

○議長（藤井 要君） 以上で鈴木茂孝君の一般質問を終わります。

（午後4時10分）

---